

平成26年10月8日

職員各位

市長

平成27年度予算編成における基本的な考え方

平成27年度当初予算の編成に臨むにあたり、市政に対する私の思いをここでお伝えいたします。

平成25年度の決算は、景気の回復傾向を反映し、市税が好調で、人件費の抑制など経常経費の削減効果が現れ、12億円の実質収支の黒字となりました。財政調整基金にも新たに5億円を積み立て、市債及び債務負担行為の残高も減少傾向となり、比較的良好な決算となりました。しかし、本年度前半を振り返りますと、4月に消費税率が8%に引き上げられ、消費にも陰りがみられ、景気の回復の動きも鈍化しています。来年10月の税率10%への改正次第によっては、市の財政への影響も懸念されます。

さて、本市のまちづくりの最上位計画である「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の取組は、現在5年の期間の3年目、ちょうど折り返し地点にあたり、さまざまな事業が実施されています。

「市民活動日本一を目指したまちづくり」では、まちづくりポイント制度がスタートし、中核的な地域コミュニティの設立も進んでおり、地域と行政のパイプ役となる地域担当職員にも活躍いただいております。

「子育て環境日本一を目指したまちづくり」では、医療費助成制度の拡大、学童保育の小学校6年生まで完全受け入れ、給食費の第3子無料化などを実現してきました。また、保育園の待機児童の解消及びその他の保育・預かりサービスも充実いたしました。

「安心安全が実感できるまちづくり」では、防災関連マニュアルを見直し、職員の初動体制を整備し、地域コミュニティとの連携を図りました。また、防犯サポーターによるパトロールの強化など、地域ぐるみでの取組を支援し、防犯活動の充実も図りました。

このような実績は、ひとえに職員各位の日々の努力の賜物と感謝いたします。

平成27年度は、「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の4年目にあたります。これ

まで取り組んできた様々な事業の成果や問題点を明らかにし、必要なものについては軌道修正をしながら、目標達成に向けてしっかりと後半の取組を継続していくことが重要です。

その中で駅前保育送迎ステーションの整備をはじめ、市の玄関口である佐貫駅の駅名変更や道の駅の設置などについて、課題解決に向けて着実に歩を進めてください。そして、これら一つひとつの取組を本市の魅力づくりに生かし、その魅力を市の内外に発信して定住促進につなげていただきたいと思います。

さらに平成27年度は、次期の最上位計画づくりを開始しなければなりません。現計画の延長線上の事業展開のみによって、まちの賑わいを維持できるのか、また、平成33年の目標人口83,000人を達成できるのかについて十分検討し、必要に応じ、新たな定住促進策となる土地利用計画につながる具体的な調査検討に着手願いたいと思います。

本年9月の広島市の土砂災害をはじめ、全国各地で集中豪雨による土砂災害が発生いたしました。本市では大きな被害は出ておりませんが、市内でも30ヶ所が土砂災害警戒区域に指定されており、これらの災害の教訓を生かしていかなければなりません。市民の生命・身体・財産を守るという使命感のもと、消防団などとの連携強化を図り、地域防災力の向上にも力を注いでください。

以上を踏まえ、平成27年度予算は、国の景気対策や地方創生等の財源を積極的に活用し、及び経常経費の無駄を省き、戦略プランに掲げた重点事業に効果的に予算を配分することとします。また、公共施設再編成の第1期行動計画においては、施設の統合などが検討されていることから、将来の財政需要に備えた「財政力強化」の取組も重要です。

龍ヶ崎市が将来にわたって輝き続けるために、ここに住む人が自然と自慢したくなる、次の世代が希望をもって住み続ける「羨望のまち」、さらに、市外の方から新たな住まいの場所として「選ばれるまち」を目指し、職員の皆さん一人ひとりが創意工夫をこらし、それを予算要求に反映していただきますよう、よろしく願います。

末筆ながら、職員の皆さんがワークライフバランスに留意し、健康で働き続けられますことを祈念いたします。